

【家庭教育支援チーム】

(1)活動主体(チーム)について

①チーム名 (呼称)	日南町家庭教育支援チーム (呼称:いちい応援隊) URL: <a href="https://www.town.nichinan.lg.jp/soshikikarasagasu/kyoikuka/kateiky
ouiku/index.html">https://www.town.nichinan.lg.jp/soshikikarasagasu/kyoikuka/kateiky ouiku/index.html
②活動拠点	日南町教育委員会事務局
③活動範囲	日南町全域
④組織体制	<p>10 人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールソーシャルワーカー 2人 ・民生委員 4人 ・保護者 1人 ・教育委員会事務局 1人 ・こども若者未来課(福祉部局) 1人 ・家庭教育推進員 1人
⑤活動開始年度	令和5年度
⑥問合せ先	(部署・氏名等) 日南町教育委員会事務局 (TEL)0859-82-1118 (E-mail)s1010@town.nichinan.lg.jp

(2)活動内容について

①活動形態 (複数チェック可能)	<input checked="" type="checkbox"/> 保護者等への学びの場の提供 <input checked="" type="checkbox"/> 保護者等への地域の居場所づくり <input checked="" type="checkbox"/> アウトリーチ型家庭教育支援(※保護者の居場所に出向いて届ける支援) <div style="display: inline-block; vertical-align: middle; margin-left: 10px;"> <input checked="" type="checkbox"/>自宅に届ける支援(情報提供、相談対応等) <input checked="" type="checkbox"/>保育所・幼稚園・学校等に届ける支援(情報提供、相談対応等) <input type="checkbox"/>その他の保護者に届ける支援(情報提供、相談対応等) </div> <input type="checkbox"/> その他()
②活動対象 (複数チェック可能)	<input checked="" type="checkbox"/> 乳幼児 <input checked="" type="checkbox"/> 小学生(低学年) <input checked="" type="checkbox"/> 小学生(中学年) <input checked="" type="checkbox"/> 小学生(高学年) <input checked="" type="checkbox"/> 中学生 <input checked="" type="checkbox"/> 高校生以上 <p style="text-align: right;">の子供を持つ保護者に対する活動を実施</p>

<p>③活動内容</p>	<p>【具体的な活動内容】 「保護者の居場所づくり、家庭教育の啓発、相談体制の整備、子どもや家庭への支援体制の充実」</p> <p>①保護者が立ち寄れる拠点づくり →相談対応や情報提供を行うとともに、保護者同士のつながりを広め、居場所とする。 ・毎週水曜日拠点「HOT ホットとる一む」開所 ・園参加日、小中学校個人懇談時に出張カフェを開催 ・小中 PTA と共催でリユース活動</p> <p>②アウトリーチ型家庭訪問 →家庭に向く家庭教育支援により、課題を抱える保護者の不安解消、潜在的な家庭課題の早期発見につなげる。 ・年長児、小学1年生、高校1年生、転入生のいる家庭への訪問 ・高校生の家庭訪問時には、不登校、引きこもり等のサポートについて情報提供し、高校生になっても町で見守っていることを伝えていく。</p> <p>③講演会、研修会 →講演会を開催し、家庭教育の啓発に努めていく。また、親子体験型の講座を開催していき、親子の心の安定につなげていく。 ・体験講座（パルクール、ポーセラーツ等） ・メディアリテラシー講座（小3児童保護者対象、こども園出張講座） ・対話型鑑賞 ・家庭教育講演会</p> <p>④広報・啓発活動 →情報紙「共育いちい」の作成、配布、ホームページでの広報、啓発 ・保護者の知りたいことや、学びや育ちに関する情報紙を作成し、園小中学校を中心に配信</p>
<p>④活動の成果 (活動実績がある場合)</p>	<p>①保護者が立ち寄れる拠点づくり ・拠点は少人数ではあるが定期的に訪問してくれる方がいて、ホッとできる場になっている。 ・出張拠点ではたくさんの方が寄ってくれるようになり、保護者同士で悩み相談をする場面が見られるようになった。</p> <p>②アウトリーチ型家庭訪問 ・家庭訪問時、保護者の声をもとに通学路の危険箇所の確認や、バス停の改善につながった。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育支援員(地域住民)とのふれあいを通し、保護者と就学前の子どもの不安感が和らぐ場面が見られた。 ・転入生、高校生の訪問は地域で見守っているという目的を理解してもらい、安心につなげることができた。 <p>③講演会、研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演会では、講師より助言をもらうことで、子どもへのかかわりについて、考え方を考えることができた、という意見があった。
<p>⑤活動財源 (複数チェック可能)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 文部科学省補助事業(事業名:学校・家庭・地域連携協力推進事業補助金) <input type="checkbox"/> 文部科学省委託事業(事業名:) <input type="checkbox"/> 厚生労働省事業(事業名:) <input type="checkbox"/> 地方公共団体単独事業として実施 <input type="checkbox"/> 特段の予算措置はない(自主的に活動を実施) <input type="checkbox"/> その他の支援により活動を実施 ()